

真心帽子 がん闘病支えに 盛岡友愛病院に 盛岡二高生寄贈

タオル帽子を看護師に手渡す(左から)山本涼夏さん、川村優果さん、高橋遥さん



盛岡

盛岡市上ノ橋町の盛岡二高家庭クラブ(高橋遥委員長)は17日、同市永井の盛岡友愛病院(佐々木達哉院長)にがん患者用の手作りのタオル帽子50個を贈った。

寄贈式は同院で行われ、約20人が出席。2年の高橋委員長と川村優果副委員

長、1年の山本涼夏さんが帽子を看護師に手渡した。高橋さんは「早く自宅に帰ることができるよう、一針一針思いを込めて縫った」と紹介した。帽子は、抗がん剤の副作用による脱毛に悩む患者が着用する。佐々木院長は「患者さんを気遣い作ってくれた帽子

は心も包んでくれる」と感謝した。

9月中旬に岩手ホスピスの会の会員の指導を受けて作製した。寄贈は、2017年から始まり3年目。

この写真と記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。